

経営者への活きた言葉

志を立てて生きる 渡邊 五郎三郎(福島新樹会代表幹事)

1. 朱子の「少年老い易く学成り難し」という言葉は、私自身の実感でもありますし、大賛成です。橋本左内の「啓発録」や佐藤一斎の「言志四録」など、日本でも多くの先覚者が説いたことで、若い人にお話をする時には、志を持つことの大切さをお伝えするために、必ずこの言葉を紹介するようにしております。
2. 志というと、クラーク博士の「ボーイズ・ビー・アンビシャス(少年よ大志を抱け)」という言葉が有名です。大事なのは実はその後が続く言葉なんです。「それは金銭や我欲のためでなく、また人呼んで名声という空しいものを得るためでもない。人間として当然備えなければならない、あらゆることを成し遂げるために大志を持つべし」ですから「大志を抱け」というのは、野望を持つこととは違います。
3. 私は日本健青会という青年運動を立ち上げた頃に、安岡正篤先生から言われましたけれども、そうすることがしっかりしていないで大きなことばかり言う人間になっては駄目です。何を願って志を立てるかが大事なのです。人生で大切なのは、この志を立てて生きることです。

(参考:「致知」2014年4月号)

ワンポイント経営アドバイス

設備投資には冷徹な目と経験が必要 藤井 博行(日立金属会長兼社長)

1. 企業の製品というのは、それが長かれ短かれ寿命を持っています。そのライフサイクルを見極めて次の主力製品を育てていくには、非常に冷徹な目と経験が必要になります。営業部門からは、お客さんからの需要があるからこれだけの設備投資をしてほしいという要請が上ってきますが、それをそのままのんでいたら大変なことになります。設備投資が会社の屋台骨を揺るがしかねないリスクをはらむことは、近年の製造業を見ても分かる通りです。
2. 時代の要請と企業体力に応じてどう設備投資をするか。周期的な景気循環が崩れた現代、最も難しい問題です。

(参考:「日経ビジネス」:2014年1月27日号)